

## 世界の自然を守るWWF

WWFは約100カ国で環境保全活動に取り組む、世界最大の民間団体です。WWFの活動は、世界の500万人の方から寄せられた会費や寄付により行われています。

### ◎ご支援よろしくお願いたします

WWF ジャパンは WWF ネットワークの一員として、国内外の自然保護活動に取り組んでいます。会費・寄付は下記の方法にてご入金いただけます。どなたでも参加できる自然保護。ご支援をよろしくお願いいたします。

個人会費：月額 500 円から

法人会費：年額一口 20 万円

寄 付：特に定額はありませ

◎お電話一本でご入会、ご寄付いただけます

TEL：03-3769-1241

(事務局直通 クレジットカード寄付)

受付時間：月～金 9:30～17:30

◎郵便振替

口座番号：00100-4-95257

加入者名：WWF Japan

◎ Web Site

サイト上で手続きが出来ます。トップページにある「支援のお願い」をクリックしてください。

<http://www.wwf.or.jp>

◎お問い合わせ

ご支援、ご入会、会員制度についての詳しいお問い合わせは、WWF ジャパン会員係まで。

TEL：03-3769-1241 [hello@wwf.or.jp](mailto:hello@wwf.or.jp)

<http://www.wwf.or.jp>

WWF ジャパン

財団法人世界自然保護基金ジャパン

〒105-0014 港区芝 3-1-14 日本生命赤羽橋ビル 6F

代表：03-3769-1711 FAX：03-3769-1717

PANDA SHOP: 03-3769-1722 法人係/募金：03-3769-1712

WWF Registered Trademark  
1986 Panda symbol WWF-World Wide Fund For Nature(formerly World Wildlife Fund)



for a living planet®



photo ©WWF / Fritz Pölking / Gerald s. Cubitt



# WWF Japan Annual Report 2003-2004

WWFジャパン 年次報告書 2003/2004年



# WWF Japan Annual Report 2003-2004

©WWF-Canon / Roger LeGUEN / Martin HARVEY / Anton VORAUER / Edward PARKER / Cat HOLLOWAY / Kevin SCHAFFER / Chris Martin BAIER

## 2003年度年次報告に寄せて

WWFジャパン 事務局長  
日野迪夫

いつもWWFをご支援いただき、ありがとうございます。  
2003年度の活動ならびに収支概況につき、ここに報告させていただきます。

WWFは2003年度、国内外でさまざまなプロジェクトを展開しました。

海外においては、南アフリカ共和国で開かれた世界国立公園会議で、保護区の設立と管理に向けたWWFの精力的な活動が、世界中の政府から認められました。オーストラリアでは、WWFが働きかけていた、グレートバリアリーフの保護区拡大が実現し、世界最大の海洋保護区のネットワークが誕生。また、WWFの大きなフィールドである、ニジェール・デルタや長江流域を含む数百万ヘクタールのウェットランドの保全が実現しました。さらに、消費者、電力会社と協力して地球温暖化の防止を目指す国際的なキャンペーン「パワースイッチ！」に向けた、新たな取り組みも始められました。

日本においても、WWFの6つの重要な活動テーマ、森林、淡水生態系、海洋・沿岸、野生生物、地球温暖化、

有害化学物質、そして、グローバル200を機軸とした、活動の拡充に努めました。グローバル200の一つに選ばれている日本最大の湖、琵琶湖での取り組みの開始や、日本が木材の消費大国としてかかわっているインドネシアの森林破壊に対する活動、地域を主体とした沖縄県石垣島の白保でのサンゴ礁保全や、佐賀県鹿島市における干潟保全の推進、また環境関連の重要な諸法立案に際した提言、関与などは、2003年にWWFジャパンが取り組んだ代表的な活動といえるでしょう。

ここにご報告する内容は、2003年度にWWFが推進した活動の一部ではありますが、私たちがどのような点を重視し、何を目標としてきたかを、お伝えしたいと思います。いまだ成果と呼べるだけのものを手にするには至っていないものも多くありますが、WWFとしてはこれからも、皆さまのご期待に極力お応えするべく、全力で活動を続けてゆく所存です。

どうぞ今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### Index

2	2003年度年次報告に寄せて	11	WWFジャパンの支援事業
3	自然保護活動	13	2003年度の活動履歴
4	森林	14	2003年度収支報告
5	淡水生態系		WWFネットワークの収支報告
6	海洋・沿岸	15	2003年度 WWFジャパン収支報告
7	野生生物	16	個人の方からのご支援について
8	地球温暖化	17	パンダショップについて
9	有害化学物質	18	募金について
10	グローバル200	19	法人からのご支援について
11	トラフィック	21	WWFジャパン役員名簿

### WWF ジャパン 年次報告書 2003/2004年

2004年9月1日発行

編集発行人：日野迪夫  
発行：WWF ジャパン  
編集・執筆：WWF ジャパン広報担当  
アート・ディレクション：SONICBANG CO.,

©本誌は、日本製紙株式会社、サンミック商事株式会社、實守紙業株式会社のご提供による再生紙（古紙100%）を使用しています。  
©本誌掲載記事、イラスト等の無断転載はお断りいたします。

# 自然保護活動

WWFの使命は、次の3つの活動によって、地球の自然環境の悪化を食い止め、人類が自然と調和して生きられる未来を築くことです。

- ◎世界の生物多様性を守る
- ◎再生可能な自然資源の持続可能な利用が確実に行なわれるようにする
- ◎環境汚染および資源とエネルギーの浪費を防ぐ

WWFジャパンは国際的なネットワークの一員として、6つのテーマを中心に、以下の活動を行なっています。

- 森林
- 淡水生態系
- 海洋・沿岸
- 野生生物
- 地球温暖化
- 有害化学物質
- グローバル 200
  - 琵琶湖、南西諸島、黄海
- トラフィック
- 支援事業

©WWF/Fritz Polking

## 森林とWWF

WWFの森林保全は、森林の保護、持続的な管理と利用、そして回復の三つの方針に基づいて行なわれています。

現在、WWFは2005年までに世界に5,000万ヘクタール

の森林保護区を設立することを目指しています。カナダ、マダガスカル、スウェーデンの各国は、新たに保護区の拡大を約束し、この目標は順調に達成されつつあります。WWFは保護区の管理をより充実させるため、14カ国で評価や提言などを行なっています。

また、WWFはFSC（森林管理協議会）の森林認証制度によ

る持続的な森林の管理と利用に取り組んでいます。2003年6月までの一年に、FSCの認証を受けた「適切に管理された木材」を生産する森林は、2,800万ヘクタールから4,000万ヘクタールに拡大しました。

森林回復については、アルゼンチン、マダガスカル、マレーシアなどの国で、13のプロジェクトを展開、継続しています。



©WWF-Canon / Andre BARTSCH / Volker KESS / Alain COMPOST

# 森林

[WWFジャパンの活動]

## 日本、そして世界の森の保全に向けて

インドネシアから大量の紙製品を輸入している日本は、現地の熱帯林保全に大きなかわりを持っています。WWFは2003年、インドネシアで特に貴重な熱帯林が残るスマトラ島テッソ・ニロの森林保全について、現地で森林伐採を行なっている製紙会社APP社と交渉を行ないました。また、日本の関連企業にも働きかけ、問題解決に協力いただいたほか、「WWFジャパン・インドネシア森林保全基金プロジェクト」を新たに開始しました。

日本国内でFSCの認証製品を積極的に取り扱う企業・団体のグループ「WWF山笑会」は、会員数を21から27に伸ばしました。認証された製品の流通や加工過程を認証するCoC（Chain of Custody）認証も、2003年度

の一年で73件から159件に増加。これによる認証製品の流通も確実に増えています。

◎多くのサポーターの皆さまにご支援いただいたテッソ・ニロの熱帯林保全については、国内の紙関連企業のスマトラ島現地視察や、シンポジウム、製紙会社への働きかけなどを実施しました。

◎日本国内でFSC認証を受けた森林は、2003年度の一年間で、7カ所から17カ所に、総面積は1万6,511ヘクタールから17万2,844ヘクタールに大きく増加。紙製品の認証も着実に増えています。

<http://www.wwf.or.jp/forest/>

## 淡水生態系とWWF

河川や湖沼、湿地などの水をめぐる自然「ウェットランド」は、地表のわずか6%の面積を占めているに過ぎません。しかし、このウェットランドは、豊かな淡水や水産資源の源であ

り、私たち人間や多くの野生動物植物にとって、生きる上で欠かせない自然環境です。

現在、淡水環境は、水資源の過剰な利用や環境に配慮しない開発行為により、各地で急速に失われています。WWFは、この4年間でラムサール条約（ウェットランドの保全と賢明な利用を目的とする最も重要な国際条約）に、保護湿地として

登録された世界のウェットランド1億2,000万ヘクタールのうち28%に関与してきました。さらにWWFは今後10年間に2億5,000万ヘクタールの保全をめざしています。

また、多国間を流れる大河川などで、周辺の自然環境を広く含めた「集水域（流域）」保全という視点で、ウェットランドの保全に取り組んでいます。

## 海洋・沿岸とWWF

2002年から2003年にかけて、WWFは合計7万7,586平方キロの海洋保護区の新設を支援し、それによって地域の漁業などに利益をもたらすという成果をあげました。その一例が、

インド洋南部のハード島およびマクドナルド諸島に設立された、世界最大の海洋保護区です。海洋保護区の設定や管理の充実、海の生態系を保全し、資源の確保を実現するほか、観光や他の産業の利益の創出にもつながります。単に漁を禁じるのではなく、持続可能な社会作りの一環として行なわれているものです。

また、EU（ヨーロッパ連合）では、毎年何百万ユーロもの補助金によって継続されている、漁業資源の乱獲を食い止める活動を行ないました。2003年、WWFはEUに対し、とりわけ急速な資源の減少を招いていると考えられる三つの補助金を廃止し、より海の自然に配慮した漁業政策の採用を求め、その合意を得ることができました。

# 淡水生態系



©WWF-Canon / Michel GUNTHER / Hartmut JUNGIUS / Kevin SCHAFER

[WWFジャパンの活動]

## 始まった「流域保全」の取り組み

2003年度より、WWF ジャパンは日本を代表するウェットランド、琵琶湖をフィールドにした、淡水生態系の保全を開始しました。湖だけでなく周辺の水田や河川など、水をめぐるさまざまな自然環境と深くかかわり、また古くから人々に利用されてきたこの湖の環境保全にも、WWFは「流域保全」という視点を活かしながら取り組んでいます。

初年度は、基本的な情報の収集や、地元でどのような人たちがどのような形で湖にかかわっているか、という調査などを実施しました。これらを基に、2004年度以降の保全計画の立案や実施に取り組む予定です。また、地域との協力については、特に滋賀県立琵琶湖博物館や、専門家と地域NGOが協働して

活動する「うおの会」とのかかわりを深め、今後の活動のためにパートナーシップの構築をめざしています。

◎琵琶湖には世界でここにしか生息しない固有の魚類が多く生息しています。WWFでは生物調査の基礎研究を実施し、これら固有種を中心とした淡水生態系の保全に結び付けたいと考えています。

◎琵琶湖での取り組みは、淡水や水産資源を利用しながら、持続的に暮らしてゆく社会づくりが目標です。これは、今後の日本のウェットランド保全においても重要なテーマです。

<http://www.wwf.or.jp/wetland/>

# 海洋・沿岸



©WWF-Canon / Jurgen FREUND / Meg GAWLER / Hartmut JUNGIUS / Anthony B.RATH

[WWFジャパンの活動]

## 人の暮らしと海の自然

ゴカイやカニなど小さな生きものが息づく日本の干潟は、多くの魚が産卵し稚魚が育つ場であり、さまざまな渡り鳥が集まる豊かな環境です。野生生物や漁業にとって、干潟はとても重要な自然。WWF ジャパンは沖縄や九州など日本の各地で、この干潟の保全を中心とした取り組みを展開しています。

開発の危機にさらされている沖縄県の泡瀬干潟では、生物リストの作成を支援。総合調査の実施にかかわりました。国内有数の干潟が残る有明海では、毎年冬に実施している、絶滅危機種ズグロカモメの越冬調査を実施しました。また、同じく有明海沿岸の佐賀県鹿島市では、地域に根ざした「賢明な海の利用」のあり方を模索する「有明海プロジェクト」

を実施。漁業や干潟環境の保全を通じ、地元の方々との協力関係の構築に注力しました。

◎九州博多湾の和白干潟では、国指定鳥獣保護区の設定と、保全活用のためのシンポジウムを実施。渡り鳥のシギ、チドリ類にとって重要な渡来地の調査も行ないました。（環境省委託事業）

◎毎年佐賀県鹿島市で開かれる、全国的に知られている「ガタリンピック」にも、地元の方々の協力を得て参加。ブースでは干潟と渡り鳥をテーマにしたクイズや展示などを行ない、干潟の重要性をアピールしました。

<http://www.wwf.or.jp/marine/>

## 野生生物とWWF

2003年11月に発表された、最新版のIUCN（国際自然保護連合）の「レッドリスト（絶滅のおそれのある種のリスト）」には、1万2,259種の絶滅危機種が掲載されました。これ

は、前回2002年の掲載種数を1,000種あまり上回るものです。WWFが保護に携わってきたゴールデンライオンタマリン（南米に生息するサル的一种）やクロサイのように、わずかながら数を回復させている動物も一部にはいるものの、全体としてみれば、深刻な野生の世界の危機がより明らかなものとされた結果になりました。

2003年、WWFにとってとりわけ大きな取り組みとなったのは、インドネシア・スマトラ島のテッソ・ニコにおける活動でした。世界有数の生物多様性を誇るこの熱帯林にすむアジアゾウやスマトラトラなどの保護活動は、調査活動や違法伐採の監視、地域での普及活動などを通じて行なわれ、現在も継続されています。

## 地球温暖化とWWF

WWFは地球温暖化による環境への影響についてのレポートの中で、氷河の融解が数十億人を水不足に追い込む可能性を指摘しました。WWFは現在、世界で唯一の温暖化防止条約「京

都議定書」の発効に向け、各国に働きかけを行なっています。また、温暖化の原因となる二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の37%を占める電力部門に働きかけ、風力や太陽光などによる発電と省エネを進めることで、電力部門からのCO<sub>2</sub>排出削減を行なう「パワースイッチ！」を開始。2004年度には、世界的なキャンペーンとして展開す

る予定です。

また、アジア太平洋地域では、10の国と地域にオフィスを置き、温暖化とエネルギーに関する活動を拡充しています。その取り組みは、フィリピンでの石炭開発に対する見直し運動から、オーストラリアにおけるCO<sub>2</sub>排出削減のための具体案の提言まで、多岐にわたっています。

# 野生生物



©WWF-Canon / Michel TERRETTAZ / Juan PRATGINESTOS / Jun MIMA

[WWFジャパンの活動]

## 野生生物保護のための枠組みづくり

現在、日本には、野生生物やその生息環境を包括的に保全する法律がありません。WWFジャパンは2002年から、他の日本の環境NGOと共に、野生生物保護基本法案の要綱を作成してきました。これは、市民団体が成立をめざして意見を一つにまとめ、野生生物を保護する法のあり方を示すものとなりました。

また、ブラックバスなどで問題になっている外来種については、法案成立が予定されていた「特定外来生物被害防止法」（2004年6月成立）をより実効性のあるものにするため、シンポジウムを開催。環境省や国土交通省、農林水産省と意見交換を行なったほか、国会で参考人として発言するなど積極的な取り組みを行ないました。関連省庁との関係を深め

たほか、市民が法案を作る「市民立法」の試みが大きく進んだ一年でした。

◎希少種を含む動植物が息づく愛知県の海上（かいしよ）の森。万博の会場候補地からは外されましたが、保全対策は今も行なわれていません。WWFは県に対し森の長期的な保全を求めました。

◎砂の流入に脅かされている高知県大手の浜のサンゴ群落の保全や、愛知県の特定鳥獣保護管理計画など各地の問題についても、検討委員として意見を述べ、より自然に配慮した対策を求めました。

<http://www.wwf.or.jp/wildlife/>

# 地球温暖化



©WWF-Canon / Michel GUNTHER / Dan GURAVICH / Jun MIMA / Hartmut JUNGIUS

[WWFジャパンの活動]

## さらなる二酸化炭素の排出削減をめざして

WWF ジャパンでは、実質的なCO<sub>2</sub>の削減に大きくかかわる政府、企業、省庁などに働きかけ、協力することで、国内の積極的な温暖化防止活動を進めています。2003年に発効が期待されていた京都議定書については、発効のカギを握るロシアに対し批准を強く求めるなど、国際的な面からの活動も行ないました。

2003年にはWWFが推進してきた、企業の自主的なCO<sub>2</sub>排出削減を、第三者機関が検証する「クライメート・セイバーズ」に、運輸業界では初めて、佐川急便が参加しました。これは、温暖化防止に向けた企業の積極的な取り組みの実例として紹介され、関係省庁や企業の関心を呼びました。また、風力や

太陽光によって発電された電力を、市民が自ら選ぶしくみ「グリーン電力」の普及にも取り組みました。

◎日本の電力部門が大幅なCO<sub>2</sub>削減が可能であることを明示したレポートや、「パワースイッチ！」の一環として作成した独自のエネルギー・シナリオを発表。実現性のある提言を行ないました。

◎「グリーン電力」については、資源エネルギー庁の「内外グリーン電力研究会」の委員に参加。前年に引き続き、国内におけるグリーン電力の普及と拡大に努めました。

<http://www.wwf.or.jp/climate/>

## 有害化学物質とWWF

自然環境や人の健康に影響を及ぼす有害な化学物質。「ストックホルム条約」は、とりわけ危険性の高い化学物質（POPs=残留性有機汚染物質）の生産と使用を規制する国際条約です。

WWFはこの条約の成立と各国政府の批准に大きな役割を果たし、2004年5月の発効に大きく貢献しました。

さらに、2004年の初めに開始した「DetoX」キャンペーンを通じ、WWFはEU（ヨーロッパ連合）の政策に、より強化された化学物質の管理と規制が盛り込まれるよう、積極的に促しています。

また、WWFが支援するアフリカ農薬プログラムでは、アフリカに食糧支援の名目で持ち込まれ、十分な管理もされないまま放置されている農薬（約5万トン）の一扫をめざしています。このプロジェクトでは、5,000万ドル以上の活動資金を確保し、2004年中に15カ国で取り組みを開始する予定です。

# 有害化学物質

[WWFジャパンの活動]

## 知ること回避する化学物質の脅威

日本では現在、特にその有害性が指摘されている残留性有機汚染物質（POPs）や、環境ホルモンについての政府への働きかけ、市民向け普及啓発を目的とした取り組みを行っています。

近年は危機感の高まりから、国内でも化学物質にかかわるルールづくりが進められ始めました。その最初の取り組みが、有害な化学物質の排出についての情報を公開する、化学物質管理促進法（PRTR=Pollution Release and Transfer Register）の施行です。

WWFはこれを積極的に支援し、行政や業界、NGOなどの関係者と協力しながら普及につとめています。しかし、PRTRそのものに対する一般の認知はいまだに低く、分かり

やすい情報の開示と、政策決定への市民参加の機会を増やすことが求められています。

◎環境省主催の「化学物質と環境円卓会議」のメンバーとして会議に参加。環境保全を推進する立場から、日本の化学物質政策の見直しを訴えました。

◎有害化学物質の排出に関する情報を一般に広めることを目的としたNGO「T-ウオッチ」の設立と活動を支援しました。PRTRに関するデータもウェブサイト上でタイムリーに公開しました。

<http://www.wwf.or.jp/toxic/>

# グローバル200



©WWF-Japan

## グローバル200

「グローバル200」とは、WWFが世界各地から選んだ、優先して保全すべき200の自然環境のことです。この「グローバル200」に選ばれた自然の

一つ一つを「エコリージョン（生態域）」と称し、WWFは現在、そのいくつかで長期的な保全活動を実施しています。この活動は、政府機関や地域、協力関係にあるNGOなど、保全の主体となるさまざまな人々と協力しながら、経済や政策の問題を解決し、持続可能な社会の構築と、その基盤となる自然環境の

保全をめざすものです。

©WWF-Japan



[WWFジャパンの取り組み]

インドネシア、スマトラ島のテツ・ニロの熱帯林や、日本の琵琶湖は、エコリージョンとして「グローバル200」に選ばれています。

世界各地のエコリージョンで、さまざまなプロジェクトが行なわれる中、WWFジャパンはこの他にも以下の取り組みを行ないました。

### [南西諸島]

亜熱帯の気候のもと、サンゴ礁と豊かな森、そして固有の生物を数多く育む南西諸島。ここでは今、さまざまな開発により、その自然が脅かされています。

### ◎ジュゴン保護と「やんばる」の保全

沖縄島東海岸に残る、日本最後のジュゴン生息地で計画されている米軍の普天間飛行場の移設問題について、防衛施設庁、那覇防衛施設局、沖縄県、環境省に対し、自然環境に悪影響を及ぼすことが懸念される現地での技術調査の中止を求めました。また、海棲哺乳類学会海牛類ワークショップにおいて、沖縄のジュゴン保護に関する行動計画を世界に向け発表しました。

同じく沖縄島の北部の亜熱帯林「やんばる」にのみ生息する、絶滅危機種ノグチゲラ、ヤンバルクイナについては今後、継続的な調査結果の公開と保全対策を求めています。

### ◎石垣島白保でのサンゴ礁保全

世界的に貴重なサンゴ礁が残る、石垣島の白保に設立したWWFサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」では、8月に地域の伝統的資源利用に関する聞き取り調査の成果をまとめ、「白保の今昔展・波打ち際の生活史」の一部を公開しました。これによって、自然と共生してきた伝統的な生活文化の保存と、若い世代への継承、豊かな自然環境を大切にしたい思いを地域で育んでゆく保全活動がいよいよ始まりました。

<http://www.wwf.or.jp/shiraho/>

### [黄海]

東アジアの重要な海洋環境、黄海において、生物多様性を保全する上で重要な地域を明らかにする、日本、韓国、中国の研究者のグループを組織しました。これは、各国の研究機関の協力のもと、漁業資源や哺乳類、鳥類、海藻などそれぞれにとって重要な地域を選び、どの地域の保全を優先して行なうべきかを検討する取り組みです。また、WWFオフィスの無い韓国では韓国環境政策・評価研究院を新たなパートナーとし、当初からのパートナーである韓国海洋研究院（KORDI）と共にプロジェクトを推進することになりました。

<http://www.wwf.or.jp/global200/>

# トラフィック

トラフィックは、野生動植物の利用を持続可能なレベルで管理し、生態系への悪影響をなくすことを目標に取引にかかわる4つの重点テーマ（希少種、エコリージョン、資源確保、国際協力）を設定しています。中でも、ジンコウ、トラ、象牙、チョウザメ、サメなどの市場を調査し、取引の透明性を高めることによって適切な管理を提案しています。これらの結果は、ワシントン条約締約国関連会議などに提出し、国際的な保護対策に役立てられています。

## 【トラフィックイーストアジア日本の取り組み】

日本での需要が高いウナギの取引や、マグロの資源管理についての提言などを実施。報告書の作成や積極的な情報交換を通じ、関係者の理解を得つつあります。

漢方薬として利用される熊の胆（クマノイ）については、日本の自然保護の観点から、取引管理が必要であることを訴え、パネルやパンフレットを作成しました。また、香料に利用される沈香（香木の一種）については、国内取引に関する情報収集を実施。これは、輸出国の情報と共にワシントン条約事務局に提出し、締約国会議での討議資料となりました。

この他、行政の要請で、ペットとして販売されていた動物の識別や、生息地の状況、ワシントン条約での討議内容を提供するなど協力を行ないました。多発するペットの盗難についても、リクガメの取引状況など、トラフィックが提供した情報が事件の解決に役立てられました。また、2002年に作成した「サンゴ識別マニュアル」も、海上保安庁が2件7人のサンゴ密漁者を逮捕した折に利用されました。

<http://www.trafficj.org/>

©WWF-Japan

# WWFジャパンの支援事業

WWF自然保護助成事業では、市民団体や研究者の活動を支援しています。2003年度は18団体に対し、助成金計1,500万円を交付しました。この事業は、WWFの重点的なテーマに類した活動を支援することで、より効果の高い日本の自然保護を目指すものです。また、WWFと日興アセットマネジメント株式会社が協同で設立したWWF・日興グリーンインベスターズ基金は、2003年度、持続的な社会づくりをめざす活動などを中心に、11団体に計1,250万円を助成しました。

<http://www.wwf.or.jp/enetwork/>

## 【2003年度 WWF自然保護助成事業資金配分先一覧】

事業名	団体名/代表者名	支援額 (万円)
<b>森林生態系の保全</b>		
白神山地・森の復元の為の植林事業 part2	白神山地を守る会	80
FSC認証取得を目標とした持続可能な里山管理システムの開発	特定非営利活動法人 杉の会	70
ヤマメコノ森づくり	対馬まるごと研究所 (旧ツシヤマメコノすむ 森の森林経営を考える会)	60

市民団体が「国際 FSC の森認証」取得する事業	特別非営利活動法人 緑のダム北相模	60
西中国山地・細見谷上流部の溪畔自然林の生態学的評価と、十方山林道の大規模林道化による影響について	森と水と土を考える会	100
<b>淡水生態系の保全</b>		
琵琶湖等における侵害的外来魚の侵入過程と繁殖生態の研究：密放流の実態把握と有効な駆除方法の確立をめざして	中井克樹	120
<b>海洋・沿岸生態系の保全</b>		
沖縄におけるエコツーリズムの拠点づくり	恩納村エコツーリズム研究会	80
吉野川河口干潟保全に向けての緊急活動	とくしま自然観察の会	80
石垣島轟川流域における農業的土地利用の季節変化と赤土流出との関連	長谷川均	92
中津干潟における鳥類・植物調査 舞手川自然公園実現に向けた準備活動	水辺に遊ぶ会	60
砂浜性スナガニ類にみる地球温暖化の兆候	和田恵次	70
<b>生物多様性の保全</b>		
泡瀬干潟の生物多様性調査（生物目録作成）と市民への啓蒙	泡瀬干潟生物多様性研究会	90
川辺川流域におけるクマタカ調査	熊本県クマタカ調査グループ	90
八重山海域におけるウミガメ類の生息実態に関する研究	ニホンウミガメ協議会附属 八重山海中公園研究所	90
日本国内におけるクロツラヘラサギの生息状況調査	日本クロツラヘラサギネットワーク	38
マングースが奄美大島の動物相におよぼす影響	マングース駆除プロジェクト	100
<b>地球温暖化関連</b>		
日本電力部門の燃料転換に関する定量的シナリオ分析チーム	日本電力部門の燃料転換に関する定量的シナリオ分析チーム	140
<b>有害化学物質の削減</b>		
ホルマリンの海水中における挙動およびその代謝物の構造解明、毒性に関する調査・研究	天草の海からホルマリンをなくす会	80
<b>支援額合計 (万円)</b>		<b>1,500</b>

## 【2003年 WWF・日興グリーンインベスターズ基金 助成団体一覧】

事業名	団体名	支援額 (万円)
<b>ライフスタイルの見直し</b>		
FSC 森林認証に関する普及推進事業	森林認証制度研究会	120
持続可能なライフスタイル・経済社会を実現する「地方自治体」の税制・財政改革推進のための普及啓発活動	「環境・持続社会」研究センター	120
MSC 認証制度に関する国内体制形成事業	海と人のシステム研究会	110
グリーンパワーパートナーシップキャンペーン	環境エネルギー政策研究所	120
PRTR 情報を活用した市民による有害化学物質削減への取り組み	有害化学物質削減ネットワーク Web研究会	110
<b>環境教育と普及啓発</b>		
カヌーイストによる川環境保護連絡会活動への助成	カヌーイストによる川環境保護連絡会	120
高知・大手の浜の環境学習を中心とした自然環境保全活動 ～自然環境保全型地域作りにむかって～	大手の浜なぎさの会	90
<b>自然環境保全</b>		
武庫川流域の希少生物の調査を行い、その結果を展示発表などの啓蒙活動により自然環境意識の向上を実現する	武庫川の治水を考える連絡協議会	90
泡瀬干潟自然環境調査	泡瀬干潟自然環境調査委員会	150
渡良瀬遊水地を中心とする市民主導の自然再生事業	わたらせ未来基金	120
漁民と市民による有明海再生活動	有明海漁民・市民ネットワーク	100
<b>支援額合計 (万円)</b>		<b>1,250</b>

# 2003年度 情報発信履歴

WWFジャパンのホームページに  
掲載した主なトピック

## [森林]

- 2004.3.30 自然保護3団体が海上の森の長期的保全と県道計画の見直しを要望
- 2004.2.20 スマトラ島の森林保護への険しい道のり 現地製紙企業による自然林保護策は不十分
- 2004.2.13 テッソ・ニコロ国立公園の設立が決定!
- 2004.1.9 「WWF ジャパン・インドネシア森林保全基金」プロジェクトがスタート!
- 2003.12.8 ゾウの森が消える! テッソ・ニコロの森の保全にご協力を!
- 2003.12.8 WWF 森林セミナー講演録「インドネシア・スマトラ島の熱帯林の保護と持続的利用に向けて」ができました
- 2003.12.4 誕生!人と森にやさしい家!「FSC 認証材の家」が完成
- 2003.11.14 コンビニエンス・ストアが、FSC 認証紙採用!
- 2003.10.7 保護区の歴史の変遷 第5回世界公園会議の開催をうけて
- 2003.8.19 インドネシア・スマトラ島の熱帯林管理に向けて
- 2003.8.14 WWF 山笑会 サイト・リニューアル!
- 2003.5.27 アジアゾウの森「テッソ・ニコロ」の熱帯林消失に欧州の金融機関が関与!
- 2003.5.6 ワークショップ「違法伐採から適切な森林管理へ」開催

## [淡水生態系]

- 2004.2.27 中池見湿地の保全が確実に! 敦賀市への寄贈が決定
- 2004.1.29 河川流域の環境保全と水資源の持続的利用をめざして
- 2003.4.1 第3回世界水フォーラムは後退

## [海洋・沿岸]

- 2004.3.17 白保サンゴ村だより アーサの収穫、最盛期!
- 2004.3.17 市民による和白天濁の活用シンポジウム開催報告
- 2004.3.12 有明海プロジェクト「かしまし日記」更新しました!
- 2004.3.3 保護より利益優先: 管理の及ばない地中海マグロ善養
- 2004.2.13 泡瀬地区の仮設橋梁着工は、社会的合意の重要性を踏みにじるもの
- 2003.12.26 石垣島・白保 赤土流出に関する過去3年間の調査報告
- 2003.12.16 深海へ拡大する漁業に警鐘 トラフィック最新レポートを発表
- 2003.12.8 吉野川河口干潟の保全を求めて
- 2003.10.30 大阪南港野鳥園、シギ・チドリネットワーク参加認定証授与式開催
- 2003.10.30 泡瀬干潟の自然環境調査
- 2003.9.9 西表島「トドゥマ浜」リゾート開発の問題点
- 2003.8.25 白保サンゴ礁定置網シノーケル「ウミンチュ仕事を知らう!」
- 2003.8.13 危機にさらされる韓国最大の渡り鳥飛来地「Saemangeum」の保全を!
- 2003.7.17 石垣発: 観察会「ウミンチュと一緒に魚をとろう」を開催しました
- 2003.7.15 石垣島・ウミガメ産卵調査を実施中
- 2003.7.15 アンパルの干潟を鳥獣保護区に!
- 2003.6.3 熊本県・球磨川河口の干潟 シギ・チドリネットワークの参加登録地へ
- 2003.5.29 泡瀬干潟問題 中城湾泡瀬地区の「環境監視検討委員会」に関する意見書を提出
- 2003.5.13 黄海エコリージョン特設サイト、開設!
- 2003.5.6 泡瀬干潟シンポジウム開催
- 2003.4.30 「流出油災害から何を学ぶか? Vol.2」タンカー事故などに伴う油汚染への対策情報集、発行
- 2003.4.25 シギ・チドリネットワークのホームページ開設!
- 2003.4.1 シギ・チドリネットワークのさらなる拡大を目指して

## [野生動物]

- 2004.3.16 絶滅の淵に立つスマトラトラ
- 2004.2.5 海洋性外来種による被害を食い止める条約が今、緊急に求められている
- 2003.12.10 那覇防衛施設局の「地質調査・海象調査の作業計画」は、科学上、環境アセス上で問題あり
- 2003.12.4 ジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保護推進をIUCN 第3回自然保護会議に向けて
- 2003.11.7 移入種対策小委員会の中間報告に対する意見書を提出
- 2003.10.31 絶滅の危機にある野生動物のコーナーを新設

- 2003.10.7 より積極的な外来種対策を! 移入種対策小委員会の中間報告案の問題点を指摘
- 2003.9.4 コゴのカタバ、10年間で1/5以下に減少。WWF、コゴ自然保護協会ほかの調査で明らかに
- 2003.7.23 国会で法案に意見「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」
- 2003.7.1 イベント「ジャンの海アシビ」開催! 1000の「願い」、辺野古の浜にたなびく
- 2003.7.1 野生生物保護法の市民立法案まとまる
- 2003.5.23 「ジュゴン国際シンポジウム」報告書完成
- 2003.4.30 ジュゴンを守ろう! ハンカチ・メッセージ実施中
- 2003.4.17 沖縄のジュゴンの危機! 普天間飛行場代替施設の建設にかかわる現地技術調査"の問題点
- 2003.4.16 論文: 米軍基地建設によるジュゴン・ノグチゲラ・ヤンバルクイナへの脅威

## [地球温暖化]

- 2004.2.13 WWFの呼びかけに応え、5つの電力会社がクリーンエネルギー導入と二酸化炭素排出量の削減義務化の支持を約束
- 2004.2.4 国立公園内に風車建設? 風力発電施設の設置のあり方についてコメントを発表
- 2004.1.29 第9回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP9)報告
- 2003.12.12 COP9 終了! 吸収源 CDM(クリーン開発メカニズム)に関するルールが合意
- 2003.12.12 ブッシュ大統領の暗躍にもかかわらず、京都議定書は着実に前進
- 2003.12.8 アメリカは温暖化防止に積極的!? ホワイトハウスの外で高まる温暖化防止への気運
- 2003.12.3 「京都議定書を批准せず」は選挙向けの虚勢 グリーンピースとWWF、ロシア経済顧問の発言を批判
- 2003.11.28 「パワー・スイッチ」キャンペーンサイト開設!
- 2003.11.28 温暖化による氷河の融解で、何十億人もが水不足に苦しむ恐れ COP9に向け、WWFが警告
- 2003.11.12 気候変動によるフィナンシャル・リスクに直面する電力会社
- 2003.10.30 新レポートを発表 2020年、日本の電力部門におけるCO2排出量は、2000年比で20%削減できる
- 2003.10.30 京都議定書とロシアの最新動向
- 2003.9.1 未来の環境を守るためのシナリオを! 経済産業省の「エネルギー基本計画(案)」にコメント
- 2003.6.25 ゴールド・スタンダードと第9回 CDM 理事会決定の教訓
- 2003.6.17 京都議定書 現在の無策を露呈する「中間とりまとめ(案)」は将来を語る資格なし
- 2003.5.29 国内第1号! クライメート・セイバーズ 佐川急便、温暖化防止に向けたさらなる取り組みを開始
- 2003.5.16 小泉総理へ書簡: 温暖化の脅威にさらされる島嶼国の声をロシア政府に届け、7月末までに京都議定書批准を!
- 2003.4.18 活動報告: WWF グリーンパワー・ウィーク終了! グリーン電力の日本での普及を目指して
- 2003.4.1 アジア太平洋グリーン電力国際会議を開催

## [有害化学物質]

- 2004.2.20 有害化学物質を廃絶する歴史的な条約がいよいよ発効へ
- 2004.2.4 有害化学物質に関する新しい報告書を発表『化学物質と野生動物: 懸念の理由』
- 2003.11.7 世界が注目するEUの化学物質政策のその後 欧州委員会が新化学物質規則案「REACH 制度」最終案を発表
- 2003.10.6 化学物質問題でいま最もホットな動き EU(ヨーロッパ連合)の新化学物質政策
- 2003.8.1 私たちの身体は汚染されている? WWF イギリスの体内汚染チェックプロジェクト
- 2003.6.1 日本初! NGOによるPRTR 情報検索サイトが5月31日より公開
- 2003.4.1 日本初のPRTR 情報公開開始!

## [WWFの支援事業]

- 2004.3.17 地域ぐるみで身近な自然を考える南アフリカ・エコスクールプログラム
- 2003.7.3 ヒマラヤ東部でのシャクナゲの保護活動
- 2003.4.1 マレーシア・キナバタンガン川での森林回復

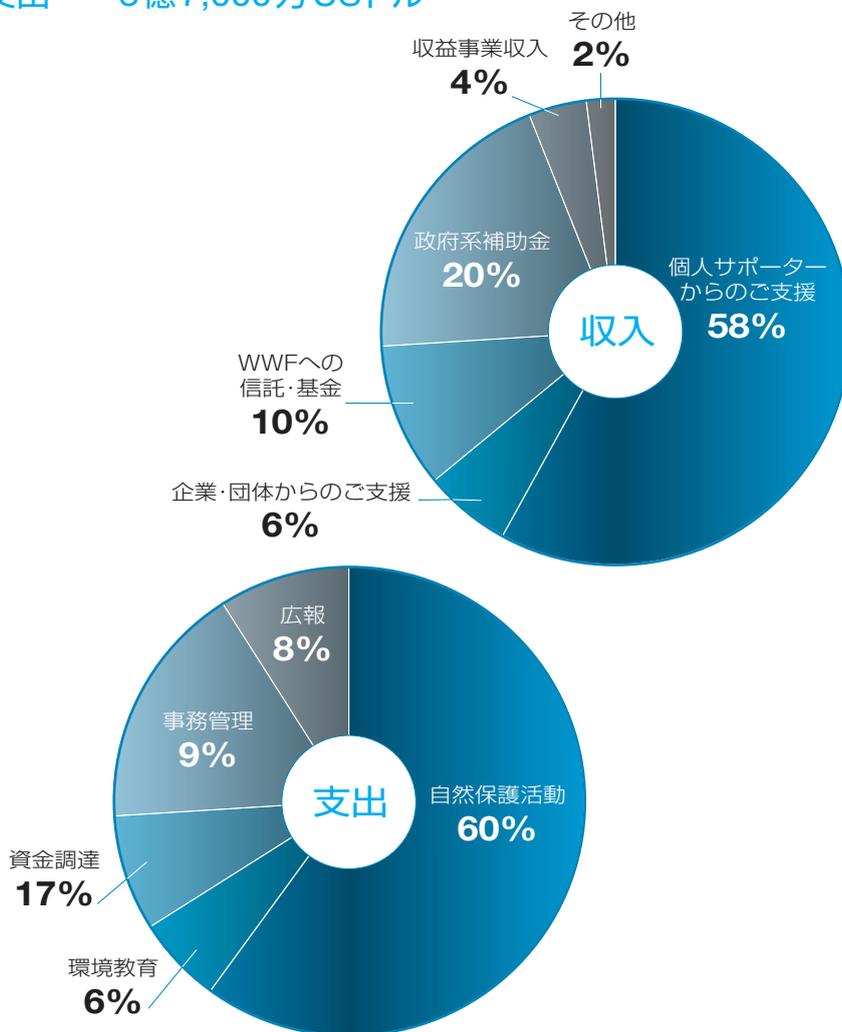
<http://www.wwf.or.jp/>

# 2003年度収支報告

## WWFネットワークの収支報告 (2002年7月～2003年6月)

総収入……3億8,200万USドル

総支出……3億7,000万USドル

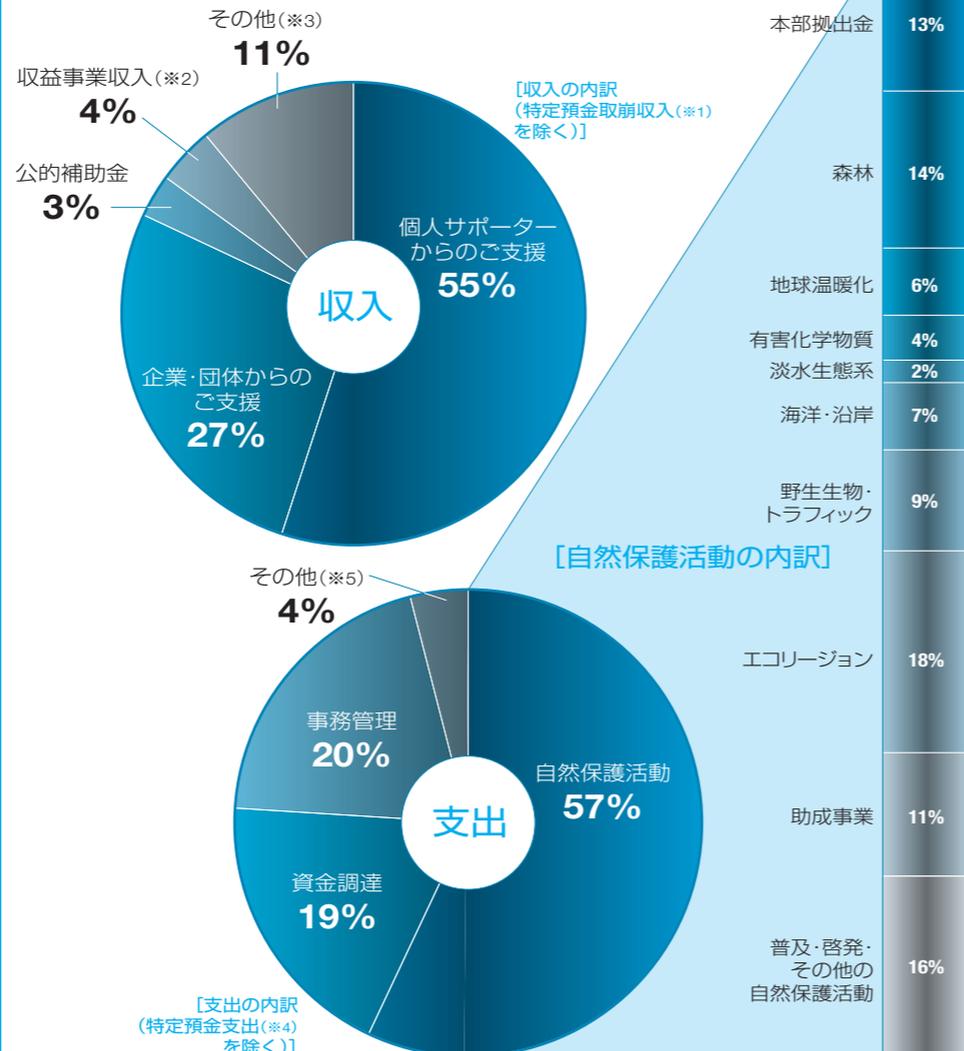


WWFの寄付者には、個人、財団、企業、政府機関などが含まれます。WWFは寄付者の皆さまの希望が尊重されること、自然保護において優先性の高いプロジェクトに資金を活用すること、そして迅速かつ定期的な報告を皆さまに約束するため、厳密な財務管理を行なうと共に、全ての資金の流れを追跡しています。また、外部の会計検査官による監査も行なわれています。

資金を提供して下さる方々からの継続した支援と信頼は、WWFにとって非常に重要な意味を持っています。それは、WWFの自然保護プロジェクトを世界中で実施することを可能にするだけでなく、長期的かつ重大なプロジェクトへの投資を可能にする経済的能力をも与えてくれるからです。

# WWFジャパンの収支報告 (2003年4月～2004年3月)

総収入……8億2,336万円  
 総支出……8億1,502万円



WWF ジャパンへのご支援は、その一部が本部 (WWF インターナショナル) へ送金され、WWF の世界的な自然保護活動に役立てられています。また、WWF ジャパンの自然保護活動として、6つのテーマに基づいた国内プロジェクトの他、グローバル 200 に選ばれたエコリージョン (南西諸島、黄海) の保全活動、および日本各地で地域に根ざした自然保護活動を行なっている団体・個人を支援する助成事業に役立てられています。

※ 収支の差額は次年度に繰り越されます。  
 ※ 1 「特定預金取崩収入」は、前年度以前にお預かりした指定寄付金等を今年度の活動に使うために取り崩した金額で、今年度は 3,975 万円を取り崩しました。  
 ※ 2 パンダショップやライセンス事業などの収益事業は、利益金額のみを計上しています。  
 ※ 3 収入の「その他」は、利息収入および収益事業会計からの資金の移動を示す「元入金戻り収入」を含みます。  
 ※ 4 「特定預金支出」は、今年度お預かりした指定寄付金等を次年度以降の活動に使うために繰り越した金額です。今年度は年度末に高額の寄付があったため、2億 581 万円を次年度以降の活動資金として繰り越しました。  
 ※ 5 支出の「その他」は、収益事業会計への資金の移動を示す「元入金支出」です。

## 個人サポーターについて

2003 年度は、会員数は前年より 2.7% (約 500 名) 増加しました。10 月には、新入会・再入会キャンペーンを実施。少しずつですが自然保護のためのサポーターの輪は確実に広がっています。寄付者を含む個人サポーター数の内訳は以下の通りです。

サポーター定義 (※)	人数
会員	18,406 人
寄付者 (会員を含まず)	8,349 人
パンダショップ購買者 (会員、寄付者を含まず)	8,567 人
募金協力者 (会員、寄付者を含まず)	310 人
<b>合計</b>	<b>35,632 人</b>

※ 2003 年度より WWF インターナショナルのガイドラインに従い、各サポーターの定義は過去 2 年間に入金実績があった人を対象としています。

## ご寄付について

サポーターの皆さまに送らせて頂いた寄付のお願いに対するご支援を始め、年間を通してたくさんの方にご寄付金をお寄せいただきました。

6 月「北の果ての物語」地球温暖化	2,730 件 / 1,576 万 1,731 円
12 月「ゾウの森が消える!」スマトラ島の森林	2,998 件 / 1,961 万 2,664 円

2004 年 5 月現在

### 〔遺贈および遺産からのご寄付〕

故人の遺言による遺贈、ならびに遺産を受け継がれたご遺族からのご寄付をいただきました。故人、ならびにご遺族の御厚意に、心より感謝申し上げます。

### 〔2003 年度に受領した遺贈関係の高額寄付〕

- 遺贈寄付 (1 件) 約 1 億 8,000 万円
- 遺産からのご寄付 (1 件) 2,000 万円

## その他の活動

### ◎ 4 月

毎月会員の皆さまにお配りしている会報『WWF』の誌面をリニューアルしました。

新しく付録のポストカードも作成。カードの絵柄は毎月、WWF ジャパンのホームページ上で皆さまの投票により選ばれています。

### ◎ 9 月

#### 会員アンケートの実施

会報 2003 年 9 月号に同封した会員アンケートに、約 2,600 人の会員の方からご回答いただきました。お寄せいただいたご意見は、今後の WWF の活動に反映させていただきます。

### ◎ 10 月

#### 第 4 回しらほサング村体験ツアーの実施

会員の方を中心に 13 名が参加し、石垣島白保の自然と人々の暮らしを満喫する 4 日間を過ごしました。このツアーは 2004 年度も実施します。

## パンダショップについて

WWFの通信販売「パンダショップ」は、収益を全て自然保護活動に役立てること、および環境に配慮した製品を消費者に紹介することで環境意識の普及に努めることを趣旨としています。

2003年度はカタログ『パンダショップ』とウェブサイトによる通信販売で約2億円を売上げました。売上総利益は約5,200万円(対売上26%)、全経費を差し引いた純利益では約2,700万円(同13.8%)となりました。

また、2003年度はウェブサイトの通販システムをリニューアルしました。ウェブサイトでの販売実績は、2003年度までに全体の約30%を占めるまで増加しており、その重要性は年々高まっています。また、「地球正常化宣言」のキャンペーンキャラクターをモチーフにしたTシャツのデザインをウェブサイト上で投票で選ぶ、という初めてのサポーター参加企画を行ないました。今後も、メールマガジンの定期化や、ウェブサイト上での限定販売を行なうなど、さまざまな新しい試みのもと、販売実績の向上をめざしていきます。

<http://www.wwf.or.jp/pshop/>



## 募金について

WWF ジャパンでは、店舗、宿泊施設、病院、会社、学校、その他公共施設などのご協力を得て、各地に募金箱を設置していただいています。特に、全国の動物園や水族館、遊園地、博物館などには、大型のパンダ募金箱を設置していただいています。2003年度までの全国の募金箱設置協力者は2,273名、募金箱の総数は4,167箱でした。また、学園祭やバザー、フリーマーケットなどの、期間を限定したイベント会場でも、募金箱の設置や商品の売上げからの募金に多くの方にご協力いただきました。また、募金箱と共にWWFの入会案内パンフレットも置いていただいています。



2003年度	合計募金額	33,848,855円
設置協力者数		2,273名
設置箱総数		4,167箱

### 総額50万円以上の募金協力企業/団体

株式会社アトム	店頭での募金箱設置
AFLAC 日本社員厚生会「One Hundred Club」	社員厚生会による社員からの募金
イオン株式会社	キャンペーン期間中の店頭での募金活動
沖縄県高校生代表者会議	沖縄県立高校の生徒による募金活動
株式会社カスミ	各店舗内で募金箱設置
神戸市立王子動物園	パンダ募金箱設置
株式会社J-WAVE	フリーマーケットによる出店料全額を募金、会場での募金箱設置など
東武動物公園	開園記念日による募金活動(入園料のかわりに呼びかけた募金)及びパンダ募金箱設置
成増会館II	店頭での募金箱設置
PFU労働組合	組合員による募金
ユーシーカード株式会社	クレジットカード利用者によるポイントからの募金

### 50カ所以上の募金箱設置協力企業/団体

株式会社アトム	210カ所
アルファリゾート・トマム	50カ所
株式会社カスミ	182カ所
九州コンビニエンスシステムズ株式会社	286カ所
株式会社ココストア	370カ所
株式会社ホットスーパーコンビニエンスネットワークス	450カ所
メガ・セイハ・インターナショナル株式会社	50カ所

2003年4月1日～2004年3月31日 50音順 敬称略

# 法人からのご支援について

地球環境の保全を推進する上で、社会的にも経済的にも大きな影響力を持つ企業が果たす役割は、非常に重要です。WWFは近年、企業とのパートナーシップを積極的に進めており、日本でも温暖化防止や森林保全の活動報告でご紹介したように、国内の環境意識の高い企業が事業の中でWWFのプロジェクトに参画する事例が増えてきています。しかし、企業の参画方法はそれだけではなく、資金を寄付することで活動を間接的に支援する、という事例も数多くあります。多様な企業への働きかけを展開していく中で、企業の資金力を自然保護活動に投入して頂けるよう説得していくことも、WWFの一つの任務と考えています。

もちろん、資金提供の見返りとして、WWFが企業に対して特別な便宜を図ったり、活動の方針を変えるようなことはありません。互いの立場を理解した上で、自然環境のために協働する、これがWWFの進めている企業とのパートナーシップです。

## 2003年度：新入法人会員

NECインフロンティア株式会社  
株式会社大塚商会  
株式会社新葉建設  
住友信託銀行株式会社  
株式会社マツモト交商  
三菱製紙販売株式会社

50音順 敬称略

## 会員継続 20年以上の法人

株式会社朝日新聞社  
株式会社荏原製作所  
株式会社荏原電産  
大阪ガス株式会社  
オリンパス株式会社  
清水建設株式会社  
住友商事株式会社  
株式会社瀬津雅陶堂  
株式会社ツムラ  
ディターミンドプロダクションズ株式会社  
財団法人東京動物園協会  
凸版印刷株式会社  
株式会社永谷園  
日本ガイシ株式会社  
社団法人日本獣医師会  
野村證券株式会社  
富士ゼロックス株式会社  
三菱製紙株式会社

50音順 敬称略

## 【著名人やアーティストによる協力】

2003年度は、3名の女優がそれぞれデザインしたプラチナジュエリーのオークションや、シャンペンボトルを使ったアート作品の展示オークション等、有名人やアーティストの方から色々ご協力をいただいた年でした。著名人の方から協力を得ることは、WWFにはなかなか難しいことなので、イベントを開催される企業のご尽力なしには実現できなかったものばかりです。芸能人やアーティストに参画して頂くイベントは、WWFをPRする機会ともなるので、企業のご協力を得て行ないたいものの一つです。



## 2003年度に100万円以上のご支援を頂いた法人

名称	内容
アスクル株式会社	カタログでの寄付キャンペーンなど
アマシャム バイオサイエンス株式会社	一般寄付
アメリカンファミリー生命保険会社	マッチング寄付
株式会社アレフ	法人会費
イオン株式会社	店頭での寄付キャンペーン
イオンクレジットサービス株式会社	店頭での寄付キャンペーン
石川島播磨重工業株式会社	法人会費
ヴーヴ・クリコジャパン株式会社	チャリティオークション
株式会社エイジア・パートナーズ	一般寄付など
株式会社エイデン	売上寄付
株式会社荏原製作所	法人会費
オリンパス株式会社	現物寄付など
菊水酒造株式会社	商品プロモーションなど
實守紙業株式会社／日本製紙株式会社／サンミック商事株式会社	現物寄付など
清水建設株式会社	法人会費
宗教法人真如苑	プロジェクトスポンサー
宗教法人生長の家	プロジェクトスポンサー
大和建鉄株式会社	法人会費
株式会社虎屋	売上寄付
日興コーディアルグループ	エコファンド／SRI ファンド
株式会社日本工業新聞社	地球環境大賞開催記念など
株式会社日本総合研究所	エコファンド
ピー・イー・ジー・インポート株式会社	プロジェクトスポンサーなど
株式会社福島民友新聞社	民友環境基金の一環として
富士ゼロックス株式会社	法人会費
プラチナ・ギルド・インターナショナル	チャリティオークション
株式会社マイカル	リサイクル活動からの寄付
松下電器産業株式会社	プロジェクトスポンサーなど
丸紅株式会社	プロジェクトスポンサーなど
株式会社ミキモト	チャリティ専用商品販売など
株式会社メノガイア	一般寄付
森ビル株式会社	法人会費
株式会社リコー	プロジェクトスポンサーなど

2003年4月1日～2004年3月31日 50音順 敬称略

# 財団法人世界自然保護基金ジャパン 役員等名簿

(2004年7月1日現在)

名誉総裁	秋篠宮文仁親王殿下	
会長・理事	大内 照之	元 世界銀行 副総裁
副会長・理事	畠山 向子	(勲)畠山記念館 館長
//	島津 久永	(勲)山階鳥類研究所 理事長
常任理事	川那部 浩哉	琵琶湖博物館 館長
//	松平 弘久	元 東京ベンチャーキャピタル(株) 社長
//	岩槻 邦男	放送大学 教授
//	渡辺 修	財団法人休暇村協会 理事長
理事	伊藤 助成	日本生命保険相互会社 代表取締役会長
//	海老沢 勝二	日本放送協会 (NHK) 会長
//	黒河内 康	元 特命全権大使
//	小林 陽太郎	富士ゼロックス(株) 取締役会長
//	佐々木 元	日本電気(株) 取締役会長
//	東海林 隆	(株)博報堂 DY ホールディングス 代表取締役会長
//	瀬戸 雄三	アサヒビール(株) 相談役
//	田畑 貞壽	(勲)日本自然保護協会 理事長
//	豊田 章一郎	トヨタ自動車(株) 取締役名誉会長
//	中川 志郎	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 館長
//	西川 潤	早稲田大学 教授
//	日枝 久	(株)フジテレビジョン 代表取締役会長
//	平野 浩志	(株)損害保険ジャパン 代表取締役社長
//	福澤 武	三菱地所(株) 取締役会長
//	藤村 宏幸	(株)在原製作所 名誉会長
//	楨原 稔	三菱商事(株) 取締役相談役
//	柳生 博	(勲)日本野鳥の会 会長
//	山野 正義	(学)山野学苑 理事長・苑長
監事	奈良 久彌	(株)三菱総合研究所 相談役
//	牧岡 晃	元 勸友商事(株) 社長
評議員	愛知 和男	(社)日本ナショナル・トラスト協会 会長
//	朝日 稔	兵庫医科大学 名誉教授
//	伊藤 宏	元 第一勧銀カード(株) 社長
//	今村 治輔	清水建設(株) 相談役
//	岡本 寛志	(勲)自然保護助成基金 専務理事
//	小椋 佳	作詩・作曲家
//	加藤 登紀子	歌手 (WWF) バンダ大使・UNEP 親善大使)
//	神林 章夫	(株)カスミ 名誉会長
//	島袋 重信	元 沖縄県環境保険部参事監
//	高藤 鉄雄	三共(株) 代表取締役会長
//	田代 和治	元 東京都恩賜上野動物園 園長
//	田中 光常	動物写真家
//	日高 敏隆	総合地球環境学研究所 所長
//	星野 真	前 (勲)世界自然保護基金ジャパン 事務局長
//	堀 由紀子	(株)江ノ島マリンコーポレーション 代表取締役会長
//	増井 光子	よこはま動物園 (ズーラシア) 園長
//	榎本 晃章	東京電力(株) 取締役
//	目崎 茂和	南山大学 教授
//	森 稔	森ビル(株) 代表取締役社長
//	森下 洋一	松下電器産業(株) 代表取締役会長
//	山崎 富治	(勲)山種美術財団 理事長
//	渡辺 誠一	ソニー(株) 業務執行役員上席常務
//	渡邊 宏	東京ガス(株) 相談役
顧問	黒柳 徹子	俳優
//	山崎 圭	(勲)国際湖沼環境委員会 理事長
//	吉田 富雄	日学(株) 取締役相談役
事務局長	日野 迪夫	

注：ここに記載されている役員等は、事務局長 日野 迪夫以外は非常勤・無報酬です。



# 二〇〇四年度の活動とご支援のお願い

WWFは現在、地球環境の保全に向け、さまざまなパートナーと共に活動を展開しています。多彩な人たちとの協力こそが、いろいろな文化や地域に合った、現実的な自然保護を実現する鍵であり、WWFという団体が持つ大きな強みです。

現在、WWF ジャパンも行政や研究者、NGO、企業、そしてフィールドである各地の方々と共に協力しながら、日本の各地、そして日本がかかわる海外の地域で、人と自然が共存できる、豊かな未来を築く取り組みを行なっています。

2003年の活動を活かし、それをより大きな成果に結びつけてゆくために、引き続き皆さまのご理解とご支援を、よろしくお願いいたします。

[現在の主な活動より]

- ◎絶滅のおそれのある動植物の取引を規制するワシントン条約締約国会議への参加
- ◎石垣島・白保で伝統的な文化に取材し、新しい人と海との共存をさぐる「白保今昔展」
- ◎日本が木材消費国として大きくかかわっている、インドネシア・スマトラ島の熱帯林保全
- ◎琵琶湖の環境保全をめざした地元滋賀県での取り組み
- ◎国内における、渡り鳥シギ、チドリ類の重要な生息地の選定
- ◎電力部門からのCO2排出削減を目指した「パワースイッチ！」キャンペーンの展開
- ◎有害な化学物質を避けるための一般向けガイドブックの作成